

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 福岡県立育徳館中学校 】

1 実践テーマ	I・III
2 実施対象者 (学年・人数)	福岡県立育徳館中学校 1年生 120名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	保健体育の陸上競技「長距離走」の单元の中で、オリンピックやパラリンピックの種目内容を加味した学習を取り入れ、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて興味を持たせる。 視覚障がい者とサポート者の両方の体験を通して、共生の心を持たせるとともに、競技者だけでなくサポーターとしてスポーツに関わり合うことができることに気づかせる。
5 取組内容	①-a 【オリンピックのことについてどんなこと知ってる】 プレゼンテーションにて、オリンピック・パラリンピックのロゴマークやピクトグラム【写真1】をクイズ形式にしなが、導入時の簡単な知識の注入と興味・関心につなげた。  活動の様子【写真1】  活動資料の一部【写真2】 【写真2】のようなクイズを出し、①-bの活動への動機づけを行った。

①-b【視覚障がい者の体験をしてみよう①】

男女それぞれペアにし、視覚障がい者疑似体験側とサポート側に分かれて、直線を走る活動【写真3, 4】とスラローム走等【写真5, 6】を行った。



活動の様子【写真3】



活動の様子【写真4】



活動の様子【写真5】



活動の様子【写真6】

体育館の両端にコーンを置き、直線を走る内容とミニハードルとフェンスネットを活用した内容の活動を行った。サポート側の生徒には、相手のことを思いながら誘導するように指示をする。また、視覚障がい者疑似体験側の生徒には、「怖ければ歩いてもよい」とことと「怖くなったら目を開けてもよい」を事前に伝えた。

②-a【視覚障がい者の体験をしてみよう②】

体育館での活動を終え、次の時間（2日目）、実際に練習で走る校内のコースで行った。1周500mのコースの長い直線にハードルを不規則に並べ、当たらないように誘導しながら走る活動を行った。【写真7, 8】



活動の様子【写真7】



活動の様子【写真8】

サポート側の生徒には、視覚障がい者疑似体験者の恐怖心を緩和させるための様々な声かけをさせながら、誘導するように指示を出した。

6 主な成果

①-aの事前アンケートの「2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを観戦しようと思うか」という質問では、4割くらいの生徒が、「いいえ」と回答していたが、活動後のアンケートでは、「いいえ」と回答した生徒のうち、「はい」と回答が変わった生徒が、2割程度と変化が見られた。【資料1】

	事前	事後
はい	68.5%	79.4%

アンケートの回答【資料1】

また、活動中の感想では、「とても怖かった」という感想がどの生徒の記述にも記載されていた。視覚障がい者疑似体験者は、「伴走者が信頼できないと走ることができない。」「今回体験して視覚障がい者のことが少し理解できた。」また、「障がい者の人に対して自分自身ができることをやってみよう。」など障がい者理解にもつながる記述もあった。

伴走者が信頼できる人だとないと、怖くて進められないことが今回の体験でよく分かりました。伴走者のことを信頼して、自信を持って走ると、タイムが縮みだり、スムーズに走れるようになりました。

生徒の感想【資料2】

②-aの活動後の感想では、「どのように声をかけたらよいのか分からなかった。」や「適切な声かけがあって安心した。」などの感想が非常に多かった。【資料3】また、他の感想では、「今後、大会で伴走者をやってみたい。」という記述もあった。

今回初めて、ランナーと伴走者をして、どちらも大変だったけど私は伴走者が1番大変でした。どう声かけをしたらいいのかが分からなくて、難しかったです。ランナーをして、目が見えない分とてもこわかったです。でも、伴走者がちょこちょこ声かけをしてくれたおかげでとても安心しました。この体験で目の見えない人の生活がどれだけこわいか良く分かりました。

生徒の感想【資料3】

今回の活動を終え、2020年の東京オリンピック・パラリンピックについては、興味・関心を高めることができたと感じる。また、視覚障がい者の理解及び関わり合いの点についても学習を深めることができたと感じる。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>2日間の活動がスムーズに行えるように、日程の調整を行った。その結果、活動の記憶が新しい状態で2日目の活動につなげることができた。その為、導入時の説明時間が短縮でき、生徒の活動時間を沢山確保することができた。また、広いスペースで活動ができたため、障がいをもつ方々のことやサポートの仕方などの理解を進めることができた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>今回活動は、保健体育の活動の中で行ったため、会議の時間を設定する時間が省略できた。他の教科等で行う際は、会議の設定等様々な連絡調整などの様々な時間設定が必要になってくると考えられる。</p> <p>2020年の東京オリンピック・パラリンピックは、生徒にとっても身近なものであったため、スムーズな活動意欲につなげることができたが、今後の取り組み方については、学校全体で検討していく必要があると考える。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>今回、オリンピックの講演会を予定していたが、日程の調整ができなかったため断念した。そのため、今後は、総合的な学習の時間やキャリア教育・学校行事等の中で講演会を盛り込んでいきたいと考える。</p>